一羊会だより

発　行
社会福祉法人一羊会
事務局　〒663-8241
西宮市津門大塚町1-47
電話（0798）31-1760
FAX（0798）31-1763

写真は、あとりえすずかけで2018年に行われたご自身の個展会場での舛次崇さんです。
来場者にコーヒーを運ぶ仕事の合間に、ご自身の絵の前で、大好きなコーラを飲んで一息ついておられました。

2021年１月21日に舛次さんが亡くなられました。心よりご冥福をお祈りいたします。

特　集

■『舛次崇～静かなまなざし～』『富塚純光～かたりべの記憶～』
2021年６月に開催される２つの個展のお知らせ……４・５
■『故松浦万里子氏の功績を振り返って』……６・７
■ 事業所紹介・すずかけ労働センター ……８

一羊会ホームページへはこちらから

松浦さん安らかに…

理事長　三浦　昇

いつも一羊会の取り組みにご支援いただきありがとうございます。

新型コロナウイルス禍、お元気で新年を迎えられたことと存じます。終息への願いとは裏腹に感染拡大は大幅に増加し緊急事態宣言発出に至った年明けになりました。

そのような中で、昨年12月１日にあの松浦万里子元親の会会長が亡くなられた事がさらに大きなショックでした。

わが青春時代から親の会による作業所作りに一緒に取り組ませてもらった私にとっては多くの事を学ばせてもらった、親と職員の違いはあれど同じ運動に取り組む頼もしい同志でありました。あの当時「親がやらずに誰がやる!!」の言葉は親の会が一丸となって施設づくりに取り組む合言葉となりました。

松浦さんありがとう、安らかに…。

さて、「すずかけ作業所」の移転建て替え工事はコロナ禍の中でもまずまず順調に進んでおり年度内には完成の予定です。高齢化対応も見据えた規模で通所の建物としては思いのほか高額になりましたが、それでもハード面の整備は年齢が経っても過ごしやすい環境を意識して職員集団でしっかり企画してくれたものです。今後も末永く社会資源として活用していってほしいと思います。

いつの時代でも福祉は人なり、一羊会の取り組みに今年も皆様の応援よろしくお願いいたします。

今年も皆様のご支援をよろしく

一羊会後援会
会長　太田　博

大変遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。

年明け早々に兵庫県でも感染が増大し緊急事態宣言が発出されていますが皆様、無事に新しい年を迎えられたことと存じます。

ご存知の方も多いと思いますが、「一羊園」建設に多大な貢献をいただいた長部文次郎氏が亡くなられ、さらには「一羊園」建設運動、作業所作り運動に熱く取り組んでこられた松浦さんの訃報にも接し、両氏のご冥福を心よりお祈り申し上げる次第です。

あの当時の大変だった頃が蘇るとともに、時の流れの中で取り組みも引き継がれていく、そんな世代間の流れを感じさせられます。

後援会活動も事務局体制が安定せず紆余曲折の中で取り組んでおりますが最近ようやく安定の兆しが見えてまいりました。しかしながらスタッフ体制はぎりぎりの状態で余裕のない中、担当職員が頑張ってくれています。

十日戎募金の代わりに募金箱を設置して広く支援をいただくべく準備しておりますが、コロナ禍の影響もありまだ正式な動きには至っていません。コロナが収束し動き出した際は募金箱の設置及び支援にご協力の程よろしくお願いいたします。

一羊会も規模こそ市内では大きくなりましたが解決すべき課題についてはまだまだ至っていません。特に地域で暮らす、高齢化に向けての大きな課題はなかなか具体化しておりません。本年も後援会活動にご協力よろしくお願いいたします。

2020年度ふり返りのエッセイ

Stay Positive！

部長　久保 廣高

今この原稿を書いている２月15日時点では、兵庫県にも緊急事態宣言が発令されていて、まだ先の見えない状況ですが、皆様のお手元に届いている頃の状況はどうなっているでしょうか。不安は続きますが、今年度の総括としてコロナ禍での一羊会の活動を振り返ってみたいと思います。

一羊会でも、マスク着用・手指消毒の徹底を心掛け、建物や車両の換気、消毒にも気を付け、日々の検温、アクリルボードの活用など、感染対策を継続しています。コロナ禍で、利用者さんも外でのレクリエーション、外出や買い物、ガイドヘルパーとのお出かけなどが自由にできず、ストレスのたまる日常を我慢せざるをえない日々が続いています。しかし、そんな中でも、利用者の皆さんがそれなりの楽しみをみつけたりして、職員の私たちもほっとする一コマもありました。そんなエピソードをいくつかご紹介したいと思います。

感染防止のために着けるマスクを巡って、職員と利用者さんの間に様々なコミュニケーションが生まれました。マスクが外れやすい利用者さんのマスクを、職員が後ろをバンドでとめて着けやすくカスタマイズしていたり、マスクが外れて困っている利用者さんのマスクを、別の利用者さんが付け直してあげていたりといった光景が日常の風景になりました。

上甲子園すずかけ作業所では、自力通勤する利用者さんが多く、菓子班と屋外班の利用者さんは、同じ建物にいても普段なかなか顔を合わせません。が、今回のコロナ禍で自力通勤の利用者さんも送迎をすることになり、普段交わらない菓子班と屋外班の利用者さんが一緒になり、車内では新しい仲間が増え、和気あいあいと言った雰囲気になっているそうで、これもコロナ禍だからこそ生まれた交流です。

武庫川すずかけ作業所ランプ班では、外出する代わりに、事業所内でコンビニのロールプレイをしました。職員が店員となって、利用者さんが仮のお金を使って駄菓子を買うというロールプレイで、みなさんわいわい楽しそうでした。こういった新しい形のレクが生みだされるのもコロナ禍ならではです。

食事を豪華にすることで、少しでも楽しみを増やすこともしています。すずかけ労働センターでは、皆さんが毎年楽しみにしている９月の篠山でのバーベキュー＆温泉ツアーが中止となり、その代わり豪華花見弁当をみんなで労働センター内で食べたそうです。

また、グループホームでは、外出ができない分ホーム内での余暇活動の工夫を職員はいろいろ考えています。あるホームでは、家庭用カラオケセットが活躍しました。自室のテレビにつなぎ歌詞が映る映像に合わせて一人カラオケを楽しんだり、またあるホームでは、仲間と一緒に感染対策をしっかりした上で、交代で歌うカラオケ大会をしたりと、今まで休日は外出するのが楽しみだった方が、ホーム内でも楽しく過ごすことができるようになりました。

まだまだコロナの影響は続くと思われますが、利用者さんは、日々我慢もしながらも、職員の工夫のもと柔軟に対応し、日々の楽しみを見つけています。そのような姿を見てわたしたち職員もまた頑張ろうと思うのです。

あとりえすずかけ新聞

第 21 便　2021．3
撮影／編集：神田　浩平

1991年に絵本作家のはたよしこ氏がスタートさせた『すずかけ絵画クラブ』に、1993年から参加した舛次崇さんと富塚純光さん。

それぞれに独自のスタイルを確立し、創作活動に没頭した２人の作品は日本のみにとどまらず、海外の美術愛好家たちの間でも多くのファンを作りました。

2009年には２人の作品が、スイスのローザンヌにある美術館『アール・ブリュット・コレクション』に収蔵されることになり、いつしか日本のアール・ブリュットを代表する作家となった２人。

すずかけ絵画クラブが30周年を迎える今年、トップランナーとして駆け抜けた２人の軌跡をたどる２つの個展が開催されます。

舛次崇（Syuji Takashi）
1974年生まれ／兵庫県出身

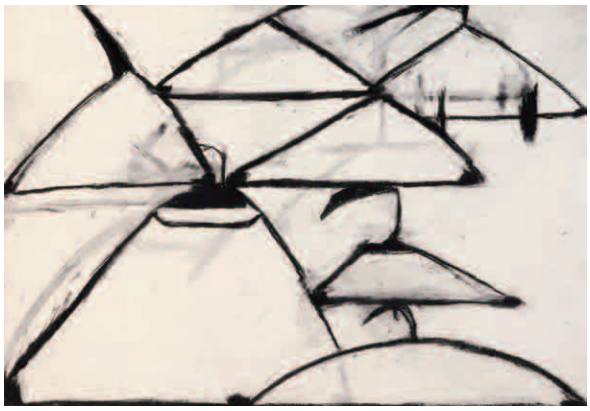
舛次さんプロフィール

文・はたよしこ

彼は笑顔でアトリエに入って来る。眼の前に置かれたモチーフを嬉しそうにまじまじと見て、小首をかしげている。青い小さな紙箱「シュウチャンBOX」の中の画材をのんびりと確認する。と、やおらノッソリと紙に覆いかぶさり、いきなり黒いかたまりを描き始めた。舛次崇は、そんな描き方で様々な形を描く。

対象をじっと見てはいるが、その形をトレースしているのではなく、どうやらそのモチーフから受ける「感じ」を直感的に受信して描いているらしい。その意識は、全体のバランスなどには向かわない。描き進んで紙の端が来ると、形成されていた形はそこで潔くプッツリと終わる。

予想もつかない緊張感をはらんだ構図。生み出されるユニークな形。絶妙な配色。それらは美術教育とは無縁のところで生まれ、屹立している。



ハンガー

外部ワークショップにて舛次さん（左）と、はたよしこ先生（右）

花瓶の植物たち

2021年１月21日早朝に舛次崇さんが亡くなられました。心よりご冥福をお祈りいたします。

近年、舛次さんは創作活動が思う様に出来なくなり、2019年12月をもって30年近くに渡る画家としての活動を終えていました。その後も、あとりえすずかけでの活動は続けられていた舛次さん。最近では、ご自身の画家活動を回顧するこの個展での目玉商品を作る為、手形の手ぬぐいの制作に挑んでおられました。

個展の会場で、舛次さんと一緒に訪れてくれたお客さんを迎えられないのは本当に残念でなりませんが、彼の遺した数多くの素晴らしい作品たちと一緒に、人々の心に残る展示を作り上げたいと思います。

あとりえすずかけ

2021年5月に個展開催に向けての クラウドファンディングを実施予定！

アール・ブリュットとは

加工されていない生（き）の芸術の意。伝統や流行、教育などに左右されずに自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現された芸術である。フランスの画家ジャン・デュビュッフェ（1901–1985）によって考案された言葉。

富塚さんプロフィール

文・はたよしこ

富塚純光の住むグループホームの個室には、壁一面に奇妙なメモが貼ってある。母親の話によると、それは30歳ごろから描きはじめた彼の記憶のメモ絵であった。日常の出来事や遠い昔の思い出など、とにかく彼は憶えていることすべてを描かないと落ち着かないらしい。そして、日々描き続けているこの膨大なメモ絵の中から１枚を取りはずして、月１回開かれる西宮市内の「すずかけ絵画クラブ」に来ては、大きな紙に描きなおしている。描きすすめているうち、記憶はさらに詳細になっていき、猛烈なスピードで手を動かして画面を埋めてゆく。絵と文字は区別できないほどに渾然一体となり、文字の形は本人でも読めないほどになってしまう。隙間があることも気になるらしく、色の点描で埋めつくす。この描き方は彼自身が編み出した方法で、26年変わっていない。

富塚純光 (Tomizuka Yoshimitsu)
1958年生まれ／兵庫県在住

すずかけ絵画クラブ初期の頃の富塚さん

昭和58年西暦1983年
青年生活学級一泊旅行

舛次崇　～静かなまなざし～
富塚純光　～かたりべの記憶～

日時　2021年 6月30日 ～ 2021年 7月6日
会場　兵庫県立美術館ギャラリー棟　3階

◎展覧会の情報につきましては、一羊会ホームページにて随時発信していきます。
お問合せはこちら → jimukyoku2@ichiyou-kai.or.jp　一羊会広報部・神田

昔純光オジちゃんが
小学校４年生時代の頃

故松浦万里子氏の功績を振り返って

2020年12月１日、元・西宮市手をつなぐ親の会（現・社団法人西宮市手をつなぐ育成会）会長の松浦万里子氏がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

松浦氏は、親の会会長として多大な貢献をされたことはもとより、一羊会の理事として法人設立や施設作り、作業所づくり、生活支援センター作りでも大変なご尽力をされた方です。

一羊会の法人設立（1976年）、一羊園設立（1977年）に向けては資金作りの為の運動に奔走され、また、その翌年には、すずかけ共同作業所(すずかけ作業所の前身)設立にご尽力いただきました。

1979年より1997年までの長きにわたり、西宮市手をつなぐ親の会6代目会長として活動され、その功績により1999年12月に厚生大臣表彰も受賞されています。

松浦さんありがとう

理事長　三浦　昇

すずかけ共同作業所設立時より松浦さんとは数多くの活動を共にさせて頂きました。その経験があり、今日の私がある様に思います。松浦さんの行動力は素晴らしく、少ない補助金だけでは運営がままならない中、十日戎での募金活動、うどん屋の出店など様々な資金集めに奔走されました。また、親の会運営の作業所を一羊会の運営にするための認可施設化に向けての行政交渉、理事会での決議に向けても積極的に動いてくれ、杉本常夫さん同様、絶えず親の会の会員の子供たちの事全体を考えて活動されていました。

お祝いの席にて松浦氏を囲んで

やさしくやわらかい口調の中にも厳しさあり、愛情あり、冷静さあり理性的な母親像が思い浮かびます。ともに喜びを分かち合える素敵な存在でした。

松浦さん、天国から私たちの取り組みを見守ってくださいね。ありがとうございました。

松浦氏の遺された言葉

一羊園５周年記念誌（1982年）
「苦難の道それは希望への道標」より抜粋

「今思い返せば苦しいこともすべて懐かしい。それは皆が心を一つに合わせることができたからであろう。本心をぶつけ合える友がいたからであろう。そして子供たちの将来に希望が持てたからである。歩いてよかった。努力してよかった。今一羊園を見るたびに「為せば成る」の金字塔を思い希望が湧く。子供たちの幸せな笑顔。それは親にとって何物にも勝る宝石の輝きである。」

十日えびす募金

追悼の辞

元　西宮市手をつなぐ親の会　顧問　　元　一羊会理事
元　西宮市議会議員　　元　兵庫県議会議員
今西　永兒

昨年末に松浦万里子さんが亡くなられたとお聞きし、共に一羊会（一羊園）を創立した者として懐かしさと寂しさが一気に込み上げてきました。

私が松浦さんと知り合ったのはちょうど今から50年（半世紀）前の事です。それは1971年（昭和46年）４月、私が25歳で西宮市議会議員に当選直後、関西学院大学教授の故･長久清先生（当時の西宮市手をつなぐ親の会会長）から「君も福祉の勉強をして私たちの仲間に入ってくれないか？」と、勧められ、西宮市手をつなぐ親の会（以後親の会）とのご縁が始まりました。

それ以来、私は親の会のあらゆる行事、会合に出席し益々絆が深まっていき、親の会と行政のパイプ役を務めるようになりました。私にとって親の会運動はライフワークであり生き甲斐でもありました。そんなことから、今西と言えば「吹奏楽と手をつなぐ親の会」と、よく言われたものです。

さて、その頃から「コロニー」を建設しようとの提案が親の会からなされ、親の会は社会福祉法人一羊会を発足させ一羊園を完成させました。その原動力になった１人が松浦さんです。松浦さんは持ち前のバイタリティーとリーダーシップで親の会活動をより活性化するだけでなく「果実は自ら取りに行くもの」と「闘う親の会」を全面に出され、共に行動した私も充実した議員活動をさせて頂きました。松浦さんが次々打ち出す先進的活動は全国の親の会でも話題となり、全国の親の会運動のモデルとなっていったのです。

そのような中で、親の会にがっつりハマった私は松浦さんに煽られ、一羊園を作る時には、笹川良一会長を訪ね、船舶振興会（現・日本財団）に１億円近い補助金をもらいに行きました。又、資金集め団体として「一羊会福祉会」なる団体を大関会長の長部文次郎氏（2020年ご逝去）と共に発案しました。（当時は長部社長も乗りが良く、寄付額に応じて役職を決める今西案に同調されていました。）これらの事はみんな私にとって今も人生の誇りであり良き思い出です。

そんなかけがえのない私の想い出の中心にいつもの大姉御・松浦さんがおられました。それを再認識したのは昨年、私が写真整理した際、親の会関係（特に松浦さんと）の写真が山の様に出てきた事です。

最後に、松浦さんが好きな「咲く時は渾身の力で咲け、輝く時は命がけで輝け。人間の一生は短い」との清水寺高僧の言葉を思い出しながら、お別れの言葉とさせて頂きます。松浦さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

追　悼

元　西宮市手をつなぐ親の会　副会長
山本　弘子

松浦万里子様、昨年４月お電話でコロナが落ち着いたら食事会をしましょうとお約束しましたのに、12月１日、突然93歳で逝かれたとの報に接し、驚きの一言でした。

本当に御疲れ様でした。きっと優しい御家族に看取られて心安らかに旅立たれたと思います。でも、もう一度御会いしたかったです！

今頃はあちらで懐かしい方々と御会いしておられることでしょう。

松浦さんは「手をつなぐ母の歌」にある「熱き希いに活きる人」「深き希いに活きる人」という歌詞通りの方で、会長在任中は、会の為、子ども達の為に一生懸命でした。私利私欲なく、恐れも知らず、役所の面々とも交渉なさる方で、現在立派に運営されている事業や作業所の基礎を造られました。

26年前の阪神淡路大震災も皆の力をまとめて乗り切られましたね。一羊会「西宮市立武庫川すずかけ作業所」の開所を最後に会長を退かれました。

私も入会して半世紀近くになりますが、松浦さんに御指導いただき何とか今日に至っております。近年は松浦さんを交えて友人達で愉快なおしゃべり会をしてきましたが、今にして思えば懐かしい思い出となりました。

本当に長い間のおつきあい有難うございました。心からご冥福をお祈りいたします。

事業所紹介
すずかけ労働センター

すずかけ労働センター 支援員
松本　直人

すずかけ労働センター（以下労働センター）は名神高速道路の下に事業所があります。雨の日は高架下を通りながら通勤できるのでとても便利です。現在、武庫川河川敷等の除草、ワンルームマンションやデイサービスセンターの清掃、リサイクル自転車の販売等を中心に作業を行っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、利用者の皆さんが楽しみにしていたレクリエーションや慰安旅行を行うことが出来ませんでしたが、感染予防に気をつけながら作業を頑張っています。

Tさんとの関わり

そんな労働センターに今年度から特別支援学校を卒業したTさんが仲間入りしました。Tさんは阪急バスが好きで、以前は毎日乗りたいため、バスに乗ることが日課になる程でした。武庫川除草作業がメインとなったTさんと、武庫川除草の作業担当１年目の私は、多くの時間を共にしてきました。当初Tさんは本人にとって不都合な事があれば、大きな声で叫ぶ、時には物を投げる事もありました。雨天時は除草作業が中止となりますが、雨が降りそうになると休もうとする事も見られるようになりました。

そんな状況を受けて当時の私はTさんにとって労働センターが楽しい場所になって欲しいという思いがありつつ、働くにあたって必要なことを支援していかないといけないという気持ちで葛藤していました。

ある日の夕方、帰宅時間でイライラしているTさんと二人でゆっくり話をしました。イライラしている理由を尋ねると「夕方にやりたいことがある」と話していました。今までも同じような事があり、その都度仕事は17時まで行わないといけないことを伝えていましたが、一度素直に私自身が思っている事を伝えてみる事にしました。学生でいた時と今労働センターで働いている時ではもう環境が変わっている事、これからは我慢をしないといけない事も増えていく事、その変化を受け入れる事は大変だけど、乗り越えられるように一緒に頑張りたいと思っている事を伝えました。その日から仕事で分からないことがあった時に私に聞きに来てくれたり、作業の確認の際「松本さんいますか？」と電話をしてくれたり、Tさんとの距離が徐々に近づいている事を感じました。Tさんとお互い本音で思いを伝え合い、信頼関係を築けるようになった感覚でした。

それと比例する様にTさんの仕事への姿勢が変わってきました。時折、楽しそうに笑顔で作業をしている事や、「今日仕事楽しかった」と話してくれる事もありました。

現在では雨天時にも作業を行ってもらえるようワンルームマンション清掃にも頑張って取り組んでいます。Tさんにはこれからも乗り越えていってほしい事はありますが、４月と比べ着実に進歩しています。利用者皆さんが事業所や地域でより楽しく過ごせるように努め、利用者皆さんから信頼してもらえる職員になる為、私自身もTさんと共に成長していきたいと思います。

一羊会の公式Facebookページができました♪

2021年１月に一羊会のFacebookページがオープンしました。
各事業所が行っている様々な活動や取り組み、自主製品の宣伝やイベントの告知など、バリエーション豊かに一羊会の魅力を発信していきたいと考えています。こちらのページは、一羊会のホームページのトップページから閲覧頂けるようになっていますので是非ご覧ください。ページの“いいね”やフォローなど、どうぞよろしくお願い致します。

〇フェイスブックに投稿された記事を“一羊会だよりアレンジ”でご紹介します。

武庫川すずかけ作業所のベンガラ染め

武庫川すずかけ作業所の就労班は、公園除草やワンルームマンションの清掃など、屋外でバリバリ働く作業チームです。そんな就労班ですが、公園除草などの屋外作業が落ち着いてくるこの冬の時期には、ベンガラ染めと呼ばれる技法で自主製品を作っています。

実際に利用者の皆さんが靴下をベンガラ染めする工程をそばで見せてもらいました。
それぞれ洗面器に水と染料を入れ、その中で真っ白な靴下を揉みこんでいきます。なかなか根気のいる作業です。
職人の様な真剣な眼差しでグイグイ揉みこんでいく人、どれぐらい染まったかこまめにチェックを入れる人、休憩多めな人、などなど、それぞれのペースで作業は進められていきます。
しばらく揉み続けていると、洗面器の中の染料の色がだんだんと薄くなってきました。
靴下に色が入ってきたサインです。すっかり染料の色に染まった靴下を眺めて、笑顔を浮かべる利用者の皆さん。最後は靴下を干して、作業終了です。

就労班がベンガラ染めを始めたのは2019年。
就労班所属の職員が自らベンガラ染めの講座を受講して技法を学び、試行錯誤を続けながら、利用者の皆さんと一緒に商品を作っています。
商品は、靴下やTシャツ、タオルハンカチにロンパースやサコッシュなど様々なラインナップがあり、どれもリーズナブルな価格で販売されています。
現在は、コロナの影響で販売の機会が減少していて難しい状況ですが、商品のクオリティーとオリジナリティーを追求すべく、就労班の挑戦は続いています。

ご興味ある方は是非、武庫川すずかけ作業所までお問合せください。
武庫川すずかけ作業所　TEL 0798-43-3760

種継 理行さんを偲んで

種継理行さんが、昨年12月10日にご逝去されました。

種継さんは昭和53年（1978年）４月に一羊園へ入所されていますので、学校卒業後の42年間を一羊園で過ごされたことになります。

入所時の書類を改めて見返したところ、養護学校時代の記録がありました。そこからは「音楽を受け止める力が素晴らしい」「友達にいくらいたずらをしても、あまり反発はうけない」など、後年の種継さんと変わらない、周囲の人から愛される人柄が伝わってきます。

一羊園へ入所された後も音楽は大好きで、電子ピアノの前で音楽に聴き入っている姿が印象に残っています。またドライブやお風呂も大好きで、周囲もそれを大切にして支援してきたように思います。

数年前から調子を崩しがちとなり、通院も増えていました。そのような中でも天性の朗らかさは健在で、「種継さんと関わっていると、なぜかホッとするんですよ」という声を、最近関わり始めたばかりの職員からも聞いていました。

最後まで自分らしく生きられた種継さん、心からご冥福をお祈りします。

一羊園　課長　**山岡 賢治**

舛次 崇さんを偲んで

2021年１月21日、享年46歳で舛次崇さんが亡くなられました。すずかけ作業所に28年間在籍されており、ご自宅から歩いて通所されていた時には、すれ違う人に手を挙げて挨拶をされていることもしばしば。他事業所の職員の方などにその特徴を伝えると、「見かけたことがある!」と言われるほど、よく見かける毎日の光景だったと思います。

そんな舛次さんは作業所でもみんなからよく声を掛けられ、その返事に「おっはよう!」や「はい!」と手を挙げて答えて下さいます。時々時間差で返事をされることもあり「今?!」と周りから突っ込まれてその場を和ませ、愛嬌たっぷりの表情でみんなを笑顔にしてくれた舛次さん。本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

ご冥福をお祈り申し上げます。

すずかけ作業所屋外２班一同

（遠藤輝・仲泊兼三郎・辰巳大星・豊田淑暁・齊藤幸江・赤松あゆみ）

法人・事業所御寄付の報告（敬称略・順不同）　2020年11月1日～2021年1月31日

＊法人
一羊会後援会　岡本征　三浦昇　塩谷健介　すずかけ作業所保護者会　5件

＊一羊園
一羊園家族会　花王祥行　匿名（3件）　5件

＊すずかけ作業所
佐川　1件

＊すずかけ労働センター
南野道明　西宮グリーン㈱　2件

＊すずかけ第２作業所
匿名　1件

＊武庫川すずかけ作業所
平野弘子（3件）　公益財団法人鳴尾会　豆柄和利　匿名　6件

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2020年度一羊会後援会会費（敬称略・順不同）　（2020年11月1日～2021年1月31日までのご納入分を記載）

＊法人団体の部
阪神園芸㈱　㈱瀧川薬局　㈻武庫川幼稚園　3件

＊個人の部
飯森隆年　井上尚子　奥田幸子　河合万貴子　河津睦子　黒田輝子　下浦洋子
千翔有峰　高谷知子　南野道明　橋本真理　長谷川幸　三原まゆみ　山口苑（2口）　14件

2021年度一羊会後援会会費（敬称略・順不同）　（2020年11月1日～2021年1月31日までのご納入分を記載）

＊個人の部
善塔勝一郎　1件

2020年度一羊会後援会御寄付（敬称略・順不同）　（2020年11月1日～2021年1月31日のご入金分を掲載）

＊法人団体の部
日本キリスト教団関西学院教会　関西学院教会婦人会　関西学院高等部　法心寺
関西学院宗教活動委員会　サンコウ消毒　夙川学院宗教部　トータルマナー㈱
(宗)日本基督教団夙川東教会さくら会　㈻名古屋学院　西宮浜産業団地協議会
日本基督教団西宮教会　日本基督教団西宮教会婦人会　日本基督教団西宮教会日曜学校　(税)丸岡＆パートナーズ　15件

＊個人の部
青木純子　飯田喜美子　浦山亜紀世　大目修平　岡田まり子　唐沢文子　河津睦子
木村清一　黒田輝子　高谷知子　竹内瞳　田中幸二　谷寿夫　中村栄子
西眞弓　馬場光子　藤本政潔　藤本美保子　堀洋子　八島満紀子
横山潤・正代　渡邉絹子　22件

2021年度一羊会後援会御寄付（敬称略・順不同）　（2020年11月1日～2021年1月31日のご入金分を掲載）

＊個人の部
善塔勝一郎　小久保京子　2件

口座名義　一羊会後援会　【銀行】三井住友銀行 西宮支店　普通 3007061　【郵便振替口座】01190-8-66322
※受領証については、払込取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。別途受領証が必要な場合はお知らせください。

Boleh!

Boleh(ボレ) はマレーシア語で「できる」を意味します。
このページでは地域共生をテーマとし、一羊会と地域の皆様方とのつながりをお伝えしていきます。

「菓子班にTV取材がきた！」

上甲子園すずかけ作業所　谷口雄大

「菓子班にＴＶの取材がくる！」と聞き、菓子班にちょっとした激震が走りました。ご覧いただいた方もおられるかもしれませんが、1月ベイコムチャンネルの「フロムにしのみや」という西宮市の広報番組の中で上甲子園すずかけ作業所のお菓子班が映りました。西宮市の福祉的就労支援事業にスポットをあてた番組内容に、普段一羊会もお世話になっているジョブステーション西宮が取り上げられ、その中の１つの福祉施設としてお菓子班を撮影して頂く事になりました。事前に構成台本が送られてきて、より緊張感が高まりました。「タレントさんも来るらしい」ワクワクしながら撮影日を迎えました。撮影当日、緊張しながら関係者の方達と挨拶。「撮影の時に口元が見えるようにこれを使ってください」と渡された透明なシールド。TV でよく見るけど、つけ方が分からない…。「カメラのテストします！」「音声もらってもいいですか？」普段聞き慣れない言葉が行き交い緊張はMAX、そして撮影スタート！「ここは〇〇な感じで話してもらえますか？」と細かな指示があり、OKが出るまで同じシーンを何度も取り直しました。制作の方たちの「ここはこうした方がいいんじゃないか」と緊迫したやり取りもあり、様々な人が妥協せず関わって１つの番組が出来ていたんだと身をもって知る事ができました。番組の中でカットされていましたが、利用者さんのインタビューも撮影されていました。堂々とした受け答えに凄いなぁと感心しました。午前に撮影が始まって終了したのはお昼過ぎ、今まで感じた事のない緊張した時間でした。

私は撮影風景を後ろから見守っているだけでしたが、とても緊張しました。出演する側はもっと大変だったと思いますが、お菓子班の様子を知ってもらえる素敵な内容に仕上がっていたと思います。SNSが普及し、以前に比べ自ら情報を発信できる時代になってきました。今回はTVの撮影でしたが、何を使いどのように情報発信していくのかはこれから益々重要になってくるのでしょう。先輩方の積み重ねによって西宮市内での知名度はありますが、「より多くの方に商品やそこで働いている人の事を知ってほしい」という想いがあります。そのチャンスは以前に比べ各段に拡がっている様に感じます。「発信する目的は何なのか？」「これから何をすべきなのか？」と考えるきっかけとなった今回の撮影でした。

YouTube から
番組がご覧になれます

こちらを検索
してみてください▶

【PR】人と人とのつながり～福祉的就労支援事業～

西宮市広報課 YouTube チャンネル「にしのみやインターネットテレビ」